

緑のリハビリ好評

所者の表情が明るくなった」と効果を実感する声を聞く。知事による認定制度も設け、全国でも先進的に取り組む兵庫県。制度の確立や浸透のためにも、今後は効果の科学的実証などが欠かせない。
(淡路総局・西尾和高)

寄せ植えなどを通じて認知症高齢者らの心のリハビリを助ける園芸療法士の国内唯一の公立教育機関・兵庫県立淡路景観園芸学校（淡路市野島常盤）が、福祉施設などに修了者を派遣する事業を始めた。受け入れた施設からは、「入

園芸療法士 福祉施設派遣スタート

癒やしの力

淡路市内の介護老人福祉施設で十一月中旬にあった第一回派遣事業。入所者四人に園芸療法士が「緊張してますか」などと優しく声を掛け、寄せ植えの手順を説明。お年寄りたちは鉢にプリムラ・ポリアンサの花苗などを丁寧に植え、おだやかな表情を浮かべた。

園芸療法は、植物の成長へのかかわりを通して、高齢者や心身に疾病がある患者の精神的ストレスを軽減する。もととは、第二次世界大戦後に米で始まった。退役軍人の治療に効果を発揮し、一九七〇年代に普及した。高齢者を主な対象とする日本と違い、感情面でのケアとともに手を動かすリハビリ、花を売る職業訓練などにも取り入れられ

「笑顔戻った」効果実感



園芸療法で、お年寄りたちに笑顔が広がる＝淡路市内の介護老人保健施設

ている。

日本では一九九〇年代に導

入。景観園芸学校は二〇〇二年、阪神・淡路大震災で県内

の多くの人が被災したことをきっかけに、花の癒やす力を学問として広めようと園芸療法課を設置した。

県も、同園芸学校の修了生を園芸療法士として知事が認定する制度で後押しし、全国でも先進的取り組みを進めている。

景観園芸学校では、養成した人材の活用や療法の普及のため本年度から、修了生約十五人を県内の福祉施設などに派遣する事業を始めた。

低い認知度

受け入れた施設からは、歓迎の声が上がる。同園芸学校の園芸療法士派遣を受け入れた介護老人保健施設の療法士、登恵美さんは「日ごろは無表情や、落ち着きのない高齢者が生き生きとした顔つきになり、会話を弾ませるんです」と効果の実感を語る。「園芸療法を何度か試みたことがあったが、植物の栽培知識がなく、花を枯れさせて失敗した。園芸療法士の専門家としての知識が必要だった」とい

普及のカギは医師との連携

う。

しかし、その効果はまだまだ一般には認知されていない。県は、園芸療法士の教育整備に向けて〇三年に、国に国家試験の導入を要請したが「作業療法士の対応で可能」と認められなかった。

同園芸学校普及指導課の中谷義孝さんは「よく笑う」などという園芸療法の効果は、医学的な実証が難しい」と指摘する。

同校の園芸療法士の牧村聡子さんは「脳波の検査で、療法とともに脳細胞が活性化する領域などを把握するなど、医師の協力も必要」と話す。

